



飲み薬について

人は病気になっても、健康な状態に戻ろうとする自然治癒力がそなわっています。薬は主に自然治癒力を助けて病気を早く治すために使われます。

内服薬の場合、口から体の中に入った薬は胃や腸で溶けて吸収され、血液の中へ入り体内を循環して効果が発揮されます。肝臓で分解された後、腎臓を経て尿中に排出されたり、肝臓から分泌される胆汁に混ざって糞便中に排泄されて体の外へと出ていきます。

薬は血液中の濃度が、ある一定以上に達することで効果を発揮します。多過ぎても少な過ぎても十分な効果が得られません。決められた量を決められたタイミングで服用することが大切です。

飲み薬の剤形と上手な飲み方

薬の剤形	飲 み 方
錠剤・カプセル剤	コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲みましょう。熱いお湯で飲むと成分が分解してしまう薬もあるので注意しましょう。また、水の量が少ないと薬が食道の粘膜にくっついて炎症を起こすことがあります。 錠剤を噛み砕いたり、カプセル剤の中身を取り出して飲まないようにしましょう。
散剤・顆粒剤	先に少量の水で口の中をうるおした後、コップ1杯の水またはぬるま湯で飲みましょう。（口の中を潤すことで、薬が口や喉にくっつかず飲みやすくなります。） 粉が苦手な方は、オブラートや服薬ゼリーを使ってみましょう。 小さいお子様は、ごく少量の水を加えてペースト状にし、お子様の頬の内側や上あごにぬった後、水などで飲ませてあげましょう。
シロップ	飲む前に、ビンを軽く振って中の成分を均一にしてから飲みましょう。 小さなお子様にはスポイトやスプーンなどを使って少しずつ飲ませ、最後に水やぬるま湯などで口直しをすると良いでしょう。 容器から直接飲むと不衛生なので、1回分ずつカップにとって飲みましょう。

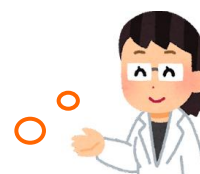
薬の保管方法



薬は、熱・湿気・光の影響を受けやすいので直射日光を避けて湿気の少ない涼しい所に保管しましょう。特に夏の車の中は非常に高温になるため、車内放置は避けましょう。

ほとんどの薬は室温保存で大丈夫ですが、坐薬や一部の目薬・シロップなど冷所保存と指示のある薬は冷蔵庫に入れて保管しましょう。わからない時は医師や薬剤師に確認しましょう。

薬は効果を十分に発揮できるよう工夫して作られています。
効果を十分に得られるように、用法・用量を守った服用を心がけましょう。



加地薬局からのお知らせ等がパソコンからご覧になれます。 <http://www.kaji-ph.com/>
QRコード対応携帯の方は右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。

